

令和6年度 京都府立聾学校舞鶴分校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p><学校目標> 夢・可能性・生きぬく力 <教育目標> 人と向き合い、社会とつながりながら 自ら考え、伝え、行動する幼児及び児童 生徒の育成</p> <p>(1)夢と希望を持ち、自ら学び自らを高め、自らの未来を見通し切り拓く力を育む。 (2)高い志とユニバーサルな視野をもって、自らの能力や可能性を最大限に伸ばし、自分らしくこれからの社会づくりに貢献できる人間を育成する。 (3)目標を実現するため、失敗を恐れず挑戦し、やり抜く意志と健康でたくましく生きる力を育む。 (4)礼儀と規律を重んじ、人を思いやり共に助け合い、人や社会と積極的に関わりながら共生する力を身につけ、次代を支える人間を育成する。 (5)自然や文化を学び、愛し、大切にすることを育てる。</p>	<p>【成果】</p> <p>(1) 全校や学部での授業研究会をとおして、授業のねらいやつけたい力を明確にするとともに、事後研究会をグループ討議にするなどして工夫したことで、組織的に指導力を高めることができた。 (2) 教師と子どもの言葉のやりとりや子ども同士が通じ合う場面を意識的に作ることで、コミュニケーションの力とともに、友達と関わる力や表現する力を高めることができた。 (3) 保健や食育、安全に関わる指導や取組をとおして、子どもたちの健康や食、安全に対する意識が高まってきた。 (4) 保護者学習会・交流会の回数を増やすことで、保護者の学びが広がり、保護者同士の絆が深まった。 (5) 教育相談や地域支援の取組をとおして、府北部の聴覚障害教育のセンターとしての役割を果たすことができた。</p> <p>【課題】</p> <p>(1) 「言語活動の充実」をテーマにした全校研究のための体制や方法について共通理解を図るのに時間がかかり、研究活動としての十分な成果を得られなかった。 (2) 校内外のICTに関わる研修をとおして個々の教員のスキルは上がったが、授業における効果的な活用のための検討まではできなかった。 (3) 屋内（体育館、プレイルーム）での遊びが中心になり、屋外での遊びや運動の機会を十分に作ることはできなかった。 (4) 教職員の手話の習得や日常的な手話の使用には課題が残った。 (5) 校務分掌の見直しは行ったが、授業準備や教材研究の時間を十分に確保するまでには至らなかった。 (6) 子どもの活動の様子や舞鶴分校の専門性等をホームページで十分に発信できなかった。</p>	<p>1 豊かな学びの創造と確かな学力の育成 ・一人一人の障害や発達に応じた言語力・学力の育成 ・授業のねらいや主体的な学びにつながるICTの利活用とICT教育の推進 ・年間をとおした読書活動や保健・食育・安全などの日常的な言語習得の取組による幅広い言語力の育成</p> <p>2 豊かな人間性の育成と多様性の尊重 ・「通じ合う」「分かり合う」「認め合う」ためのコミュニケーション能力の育成 ・多様な集団における経験を広げ、子ども同士で言葉のやりとりをする力の育成 ・自立活動の学習や交流及び共同学習、人権の取組などをとおしての自他を理解する力の育成</p> <p>3 健やかな身体の育成 ・運動遊びや体育、体育的行事や日常的な遊びの充実による基礎体力の向上 ・自立と社会参加の基盤となるソーシャルスキル（主に健康・生活）の育成 ・体づくりや生活習慣の確立に向けた家庭との連携</p> <p>4 学びを支える教育環境の整備 ・感染症の拡大防止や熱中症等の対策の徹底とコロナ禍前後の状況を踏まえた教育活動の見直しや工夫 ・手話や教育オーディオロジー等の研修による教職員の専門性の継承と人材育成の推進 ・教職員が健康で生き生きと働ける職場づくりと働き方改革の推進</p> <p>5 学校・家庭・地域の連携・協働と社会教育の推進 ・PTA や学校運営協議会、福祉機関等の関係機関との連携による教育活動の充実 ・府北部の聴覚障害児や保護者、地域のニーズに応える相談活動の充実とネットワークの強化 ・舞鶴分校の強みや魅力、教育の成果や専門性の幅広い発信</p>

評価領域	短期経営目標	具体的方策			成果と課題
1 豊かな学びの創造と確かな学力の育成	一人一人の障害や発達に応じた言語力・学力の育成	<p>年間研究テーマ「数や算数科における学力を育てる」に基づいて、月1回の全校研究会を計画的に開催し、研究活動と日々の教育実践を結び付けることで幼児児童の数や時間の概念を広げ、算数的思考力を高める。</p> <p>一人一回以上の授業研究会(全校・学部)をとおしてPDCA サイクルによる「わかる」「できる」授業作りに取り組むことで教員一人一人の授業力を高める。</p> <p>自立活動の指導を通して幼児児童の言語力の実態や課題をアセスメントし、担当と担任との連携によって幼児児童の言語力や学力を高める。</p>			

	授業のねらいや主体的な学びにつながるICTの利活用とICT教育の推進	授業のねらいや活動の目的に応じたPCやタブレット等を活用方法や子どもの様子、成果等について共有することで全体としての力量を高める。 交流校や居住地校、本校との交流において、オンラインを活用した伝え合いや学び合いの機会を積極的に作ることで交流及び共同学習をさらに充実させる。 授業でのよりよいICT機器の活用を進めるために、スキルアップのための研修に取り組み、成果を共有する。(校内研修、学校DX研修 他)			
	年間をととした読書活動や保健・食育などにおける日常的な言語習得の取組による幅広い言語力の育成	年間をととして幼児児童の実態に応じた読書活動を工夫し、一人一人の本に触れる機会や読書量を増やすことで「本好きの子ども」を育てる。 言葉遊びや社会の動き、保健や食育などに関わる言葉を掲示し、子どもたちが意識して読んだり考えたりすることで幅広い言葉の力を育てる。 会話を楽しむ気持ちや「もっと話したい」「もっと知りたい」という意欲を育てるために、毎日の挨拶や日常的な会話の中で常に「複数回の言葉のやりとり」を意識して関わる。			
2 豊かな人間性の育成と多様性の尊重	「通じ合う」「分かり合う」「認め合う」ためのコミュニケーション能力の育成	集会・集団遊び・ペア活動での伝え合いを通して、幼児児童が自分の言葉で話し、子ども同士が通じ合う関係を築く。 体験的な学びを充実させ、事後の感想発表や日記・作文などとおして感じたことや思ったことを他者と共有・共感できるようにする。 教職員は、子どもの前では言語力やコミュニケーション意欲の向上、情報保障の視点に立つてできる限り手話や指文字を用いて話す。			
	多様な集団における主体的・対話的な学びの創造	児童会遊びや行事などにおいて子ども同士が関わったり話し合ったりする機会を作り、関わりの様子などを記録・分析することで、子どもたちの心の動きや成長を確認する。 居住地校や本校との交流において形態や内容を工夫し、子ども同士が関わる場面や機会を作ることで、幼児児童の自主性や主体性の力を伸ばす。 行事や取組において高学年としての目標をもち、自分たちの力で計画・実施・振り返りをする活動を増やすことで、6年生の自主性・主体性を高める。			
	自立活動の学習や交流及び共同学習、人権の取組などとおしての自他を理解する力の育成	自立活動での学習内容や子ども自身が考えたことを交流及び共同学習で発表し、話し合いや学び合いをおして自己や他者を理解する力を高める。 人権週間や「いじめアンケート」、「いいところ見つけ」等の人権の取組を通して、お互いの個性や価値観の違いを認め、自他を大切にすることを育む。 卒業生や成人聴覚障害者と関わったり話を聞いたりする機会を作り、自身の障害や進路、将来の社会での生活などについて考えたり話し合ったりすることで、将来の目標や将来への見通しをもつ。			
3 健やかな身体の育成	運動遊びや体育、体育的行事や日常的な遊びの充実による基礎体力の向上	体育的行事や取組における体力向上のねらいを明確にし、系統的かつ継続的に取り組むことで幼児児童の基礎体力の向上に取り組む。 月1回の児童会あそびでのゲームや遊び、ダンスをおして友達と一緒に楽しく体を動かすことで基礎体力を向上させる。(ペアや複数での活動 など) 外遊びや屋外での活動を意識的に取り入れ、思い切り体を動かすことやダイナミックな遊びなどに取り組むことで体力を向上させる。			

	自立と社会参加の基盤となるソーシャルスキル（主に健康・生活）の育成	学校保健計画に基づいた指導に取り組み、健康に過ごすための基礎的な知識や行動など、ソーシャルスキルの基盤となる力を身につけさせる。					
		食に関する指導の全体計画に基づき、日々の給食や給食週間をはじめとした食育の取組や家庭との連携をとおして食に対する意識を高め、将来にわたって健康に過ごす体を作る。					
		学校安全計画に基づき、安全に通学したり、社会生活を送ったりできるよう「安全の日」（毎月11日）を設定し、通学指導や安全・生活指導を計画的かつ継続的に取り組む。					
	体づくりや生活習慣の確立に向けた家庭との連携	日々の連携や連絡ノートなどをとおして家庭での生活習慣や生活実態を把握し、食事や睡眠など、規則正しい生活が送れるように指導する。					
		幼児児童のよりよい生活習慣の確立に向けて、長期休み明けに生活調査を行い、結果を踏まえて家庭への報告や啓発を行う。					
		たよりや掲示物などを活用して、健康管理や基本的な生活習慣の確立に向けての情報を積極的に発信する。					
4 学びを支える環境の整備	感染症や熱中症等への対策の徹底とコロナ禍前後の状況を踏まえた教育活動の見直しや工夫	感染症や熱中症の通知やまわりの状況を踏まえ、感染症や熱中症への対策を徹底することで幼児児童の健康を守り、教育活動を継続させる。					
		コロナ対策前後の状況やコロナ禍での工夫や見直しも踏まえて行事や取組の内容を検討して実施する。					
		感染症や熱中症への対策をすすめるために、家庭との連携を十分にもつ。（風邪症状がある場合の対応、帽子や水筒の持参など）					
	手話や教育オーディオロジ一等の研修による教職員の専門性の向上・継承と人材育成の推進	年間を通じて手話学習会や専門研修等を計画的に実施し、教職員の専門性の向上につなげる。					
		聴覚管理や教育相談、自立活動に係る専門性の継承と向上のために、校内での研修やケース検討、対外的な研修の報告会の開催やチップシート等による研修資料の作成に取り組む。					
		日頃の実践や子どもとの関わり、指導方法などについて自由に話し合える機会を作り、人材育成や職場全体の専門的力量を向上させる。					
	教職員が健康で生き生きと働ける職場づくりの推進	お互いに敬意を払い、尊重する意識をもって接すること、丁寧なコミュニケーションに心がけることで風通しの良い職場づくりをする。					
		働き方改革の視点に立って、それぞれの部署や職種における業務、分掌組織や取組のさらなる検討や見直しを行うことで、健康で働ける職場をつくる。					
		研修やグループワークをとおして健康やワークライフバランスに対する理解や実践力を高める。					
	5 学校・家庭・地域の連携・協働と社会教育の推進	PTA や学校運営協議会、福祉機関等の関係機関との連携による教育活動の充実	参観日の感想や教育アンケート、学校運営協議会や関係機関との連携の機会をとおして舞鶴分校の教育への評価や要望を集約し、具体的な改善につなげる。				
参観日を活用して、保護者が学んだり交流を深めたりする機会を作り、保護者の子育てや家庭の教育力向上を支援する。							
SC や SSW、聴覚言語障害センター等の関係機関との連携によって子ども理解をすすめ、学校や家庭・地域における幼児児童の学習や生活を充実させる。							

聴覚障害児や保護者、地域のニーズに応える教育相談活動や支援の取組の充実とネットワークの強化	聾学校幼稚部への入学や就学、小学部卒業後の進路選択にあたって、参観日や懇談会、教育相談などにおいて保護者の学習や交流の機会を作り、幅広い情報提供に努めながら保護者の進路選択を支援する。				
	「舞鶴分校の集い」や地域別保護者懇談会を開催し、つながりや学び合いをとおして子どもや保護者の自己や他者への理解を深め、ネットワークを築く。				
	聴力測定や補聴器調整、地域支援のあり方や方法について学び合う機会を作り、若手人材の育成やチームとしての専門性の向上に取り組む。				
	舞鶴分校の強みや魅力、教育の成果や専門性の幅広い発信	ホームページの更新回数を増やすとともに、幼児児童の活動の様子や地域支援の取組、聴覚障害に係る専門性など、幅広い内容を発信することで舞鶴分校の認知度を上げ、府北部での存在意義を高める。			
		学校公開や担当者連絡会、公開講座やスキルアップ講座などを開催し、参加者のニーズや地域の課題に基づいた内容にすることで地域の支援力を高める。			
		学校だよりへの記事の掲載や地域支援センターだより(仮称)の発行によって、地域支援センターの事業や専門性、福祉等に関わる幅広い情報を発信する。			

学校関係者評価委員会による評価	
次年度に向けた改善の方向性	